

海棠（かいどう）

花盛りの大きな海棠の樹を一本

見つけてこよう

その小枝も大枝も

花のついている限り折りとるのだ

艶のいいきれいな木の棺をひとつ

都合してこよう

まずは底に華やかな小枝を敷きつめて

ほの甘い香りで麻酔にかけた

あの男の暖かいからだを横たえる

そして隙間すきまに

真っ白に開いた花を七百数え

それから薄桃色の開きかけの花を二百と

鮮やかな紅の硬い蕾を四十九いれて

ふちまで柩（ひつぎ）を埋めつくす

彼の蒼白く閉じられたまぶたに

あたしのとっておきの笑顔と

自慢の細い足首がくるくる回っている眺めを吹きこみ

彼の小さな耳には

あたしの足音と

祭で喝采（かっさい）をあびた唄声をぼとぼと落とそう

そのあとで男を

冷凍催眠にかけてしまおう

あたしが死んだ三十年後に目覚めるように

眼を開けても

もうあたしを覚えているものは誰もいない

ただ彼ひとり

あたしの思い出にむせかえる